



日 時	第1回	8月20日(土)	9:30~11:30
	第2回	9月 3日(土)	9:30~11:30
集合場所	両日とも鶴瀬公民館いきいき活動室		
受講生	第1回; 16名 第2回; 13名		
講 師	山室湧水路保全プロジェクトのメンバー		

代表 守山 義一氏 (県生態系保護協会会員)  
泉 北斗氏

第1回、守山講師から受講生全員に紺色、「リバサポ」帽  
子のプレゼント。

早速、帽子をかぶる子どももいて今日から気持ちはリバサ  
ポーターズのメンバーになりました。

まずは講師の自己紹介後、国土交通省、環境省の提供の  
動画を視聴。

限られた水の大切さ、日本は水に恵まれているようで年間  
に一人当たりの使える量は世界的に少ないなど改めて水の  
話を知った。

水循環 水不足、洪水、水質悪化などと大気・温暖化、地球



講師 守山 義一氏  
泉 北斗氏

全体の気候変動も合わせて考えようと提起があった。

また「湧き水めぐり イン 富士見市」日本地下水学会・見学案内資料が配布された。国土地理院数値地図 2016年10月1日



第1回は地域の身近な湧き水観察で、峰岸宅を訪問。庭に湧き出ている状況、水神がまつられ、ハスが植えられていた。側溝から湧き水を採取。

手を入れると、水温は20度前後か、ひんやりと感じられた。

鶴瀬公民館に戻ってからパックテスト・水質検査を実施。

PH 7～7.5 →中性、飲料適

クリーンメジャー（ガラスの管）に水を注ぎ、透明度を見る。

全員がのぞき込み、平均117cm。水温の冷たさに驚いたと感想が漏れる。

第2回は諏訪の浦野宅の湧き水観察を実施。

計測はされていないがパイプを通して豊富な水量が流れていた。

浦野氏のご挨拶では、当家は珍しい3世代同居で400年の歴史があり、昔は湧き水を近隣に提供されていた。

将来は湧き水を生かした公園を市に提案されているようです。

浦野宅から池を囲む塀を迂回し、住宅街の湧き水をたどりながら山室排水路に向かう。

途中、3面をコンクリートで固められた水路、U字溝、暗渠や比較的自然をとどめた水路があり山室集会所にたどり着く。

箇所により川の表情が変わるのも子どもたちには興味深い様子でした。

山室排水路の2カ所に仕掛けられた定置網に魚、アメリカザリガニが大量に入っておりバケツに移し替えて早速子どもたちの観察会が始まった。

また川にはハグロトンボが複数飛び交っており、定期的なごみ拾いでオニギンヤンマ、シオカラトンボなど見ることができるようになった。

水草（オオカナダモ）が花をつけており、ここがホトケドジョウの生育の場所や小魚の隠れ場所になっているなど現地を見なければ知りえないことが多かった。



集会所では定置網にかかった魚類を個別に観察。森山先生から魚類が印刷された下敷きが配られた。20cm近いドジョウやヌマガチを確認した。

先生のお話では昨日まで雨が降り、魚の確保が難しかったそうです。

参加した子どもたちは「おもしろかった」「(いただいた)下敷きがきれい、嬉しい」など感想を言っていた。

川から採取した魚を入れたバケツを子どもたちが2人がかりで運んで、かわるがわる水槽に入れてくれたりしてよく手伝ってくれました。

夏休みの宿題にオニヤンマのヤゴの観察日記を提出した子がいて見せてくれました。

集会所の外で、6月にはホトケドジョウの稚魚が川を上ってくる途中で、川を遡るには乗り越えられない堰があり保護が必要、絶滅危惧種のホトケドジョウを何とか残したいという先生の熱意が伝わってくるお話でした。

泉先生からもご自分の経験から自然について探求し研究を続けられている話をしてくださいました。

10歳ぐらいの時に富士見市民大学の環境講座でパックテストを体験し、自然や魚に興味をわき研究者を心ざしたそうです。

最後に守山先生から子どもが自然に気付き、これをきっかけに探求心を伸ばすことが大切で、大人の役割ではと問いかけられました。

富士見市は自然が豊かに残っており、川に入ったり子どもたちが触れ合える機会をたくさん作る必要があると話された。

詳しくはホームページで「市の自然遺産」や「山室湧水地の保全プロジェクト」を見てほしい。





報 告 加藤久美子  
写真撮影

辻 明  
杉本祐太朗 (鶴瀬公民館)

